

gendai.ismedia.jp

島耕作はついに「社外取締役」へ…50年以上勤めた会社を去っても、まだまだ働く理由(弘兼 憲史) @gendai_biz

弘兼 憲史



著者・弘兼憲史氏に今後の展開を聞いた

—数社の社外取締役を兼任する人も多いと聞きます。いずれはさらに他の企業を兼任する可能性も？

状況によってはあるでしょうね。個人的には、インターネットの台頭で厳しいといわれる放送業界、特にラジオ局には興味を持っています。巨額のお金が動く建設業界もおもしろそう。物語を盛り上げる俗っぽいエピソードなんかも織り交ぜながら、いろいろな業界を見てみたいですね。

—テコットとはもう関わらないのでしょうか。

立場的には完全に離れますが、オブザーバーのようなかたちで関わってはいくでしょうね。「相談役」の最後のほうで触れていますが、テコットは今後、新社長の四谷嵐子が中心となって半導体の分野に力を入れていくことになります。

世界の半導体の市場規模は年々拡大しています。ところがテコットは島が会長だった時に、赤字決算を回避するために半導体部門を売却してしまった。その時はやむを得ない判断だったのですが、今回の辞任はこの責任を取ったかたちでもある。おそらく島にとって唯一といっていけるほどの汚点です。

しかも、日本の半導体産業そのものも、かつては世界トップシェアを誇っていたのに経済の低迷とともに衰退。パナソニックや東芝が半導体事業を海外に売却しています。現在は台湾、韓国に次いで3位ですが、外国資本が多いので実質はもっと低いと言われている。そのような中でテコットがどのように取り組んでいくのかを見守り、サポートしていくのではないのでしょうか。

――時勢とリンクしているのが「島耕作シリーズ」のおもしろさですよ。

そうですね。ビジネスの知らないこと、わかりにくいことを漫画を通して多くの人に知ってもらえたらいいなと思って描いています。ただ、島耕作はいまだにフェロモンオヤジのイメージが強い。課長時代のオフィスラブやバブル期の銀座のインパクトが大きいんでしょうね。